

酪農女性や酪農業界に関わる女性同士の交流を深める「酪農女性サミット2017」が12月5・6日、初めて札幌市内で開催されました。道内の酪農家の女性6人が中心となって企画、酪農の仕事をやりながら創作を続ける画家の富田美穂さんの基調講演、酪農もおしゃれも楽しみたい女性たちのファッションショー、酪農女性のやる気向上にスイッチを入れるパネルディスカッション等、全国から集まった女性たちが語り合いました。

クローズアップ③

牛がつなぐ 酪農女性サミット 2017

このサミットは、酪農女性の様々な情報交換の場の一つとし、みんなで酪農を盛り上げたいという思いから開催されました。酪農の仕事に関わるようになった理由は人それぞれですが、女性に関わると、女性ならではの目線や考え方により、とても力強い労働力が加わります。女性は楽しむことも上手。日常のコミュニケーション能力、得意のおしゃべりで情報伝達にも強みがあり、それを活かして仕事ができます。

ファッションショーでは、酪農をもっとおしゃれにとの思いから、女性用つながりが披露されました。つながりの考案者でモデルも務めた小林晴香さんは、女性のつながりは、キャリアウーマンのスーツと同じと言います。生地にストレッチ性を効かせたり、ウエストにチャックも入れ、動きやすさや暖かさ等機能性を重視し、さらにピンクのステッチも入れるなど、見た目も工夫しました。お母さんとおそろいの子ども用つながりもできました。小林さんによると、普段、酪農家が商品（牛乳など）を売る事はないが、このつながりは直接、消費者につながる手段なので手応えを感じるそうです。



実行委員会の皆さん（右から2人目が小林晴香さん）



富田美穂さん（展覧会にて）

基調講演を行った画家の富田美穂さんは、酪農ヘルパーをしながら創作活動をしていて、学生時代の卒業作品をきっかけに、牛を題材とした木版画を制作しています。展覧会に伺ったところ、富田さんの作品は、牛の力強さ、美しさなど木版画でしか表現できないとても魅力的なもので、牛と同じくらいの大きい作品は圧巻でした。大きい作品の制作には半年くらいかかるそうです。とても版画に見えなくて、牛の毛が一本ずつ表現され、写真の様に感じる作品ばかりでした。

このサミットに参加した皆さんの酪農女性としてだけでなく、働く女性として一つの自分の目標、課題、夢を語る姿はとてがかっこよく、輝いていました。男性と同じようにしなくても活躍できると示してくれていました。でも、一番感じたことは、みんな牛のことが「モウー大好き」なんだということです。みんなの期待に応え、第2回目も開催を考えたいとのことでした。

※ 当誌2018年1月号新春座談会「スマート農業で北海道を未来につなぐ」もご覧ください。